

②-2 S+V (第1文型)・There 構文


「主語+動詞」だけで成立する〔意味が通じる〕文を第1文型と言う。この文型の動詞は目的語や補語をとらない。

KEY SENTENCE

Mike smiled.
(マイクは笑った)

S+V (第1文型)

Mike smiled. 
S V

のように「主語+動詞」だけで構成され、自然な文として意味が通じる文を第1文型と言う。

修飾語(句)を伴う場合

第1文型の文には修飾語句が付くことが多い。

Mike smiled at the girls.
S V M
(マイクは少女たちに向かってほほえんだ)

There 構文

There is[are]... で「…がある」という意味。「There+動詞+主語」という語順をとる。There 構文の There には「そこに」という意味はない。

There were a lot of people in the line.
V S
(その列にはたくさんの人が並んでいた)

There 構文の動詞は原則として後の名詞の数・人称に一致する。なお、疑問文を作る場合には there が主語のように働く。

Is there a post office around here?
(この辺りに郵便局はありませんか)

There に続く語には、ほかに live, stand などがある。

Once upon a time there lived a beautiful princess.
(昔々ある所に美しいお姫様が住んでいました)


②-3 S+V+C (第2文型)


「主語+動詞+補語」で成立する文を第2文型と言う。この文型の動詞は補語をとる。


KEY SENTENCE



Mrs. Jones is our math teacher.
(ジョーンズ先生は私たちの数学の先生です)

S+V+C (第2文型)

Mrs. Jones is our math teacher. 
S V C

では our math teacher を除くと Mrs. Jones is という意味が通じない不完全な文になる。このように動詞の後ろに補語がきて初めて成立する文を第2文型と言う。

Mrs. Jones is our math teacher. 
S V C (名詞)

では、Mrs. Jones = our math teacher という関係になっている。our math teacher のように主語を説明するものを補語と言う。補語になるものには、名詞のほかに代名詞、形容詞などがある。  ②-1

■ 補語が名詞および名詞の働きをするものの場合

Phoenix is the capital of Arizona.
C (名詞)
(フェニックスはアリゾナの州都である)

Is this tennis racket yours?
C (代名詞)
(このテニスラケットはあなたのものですか)

My dad's favorite pastime is skydiving.
C (動名詞)
(私の父のお気に入りの気晴らしはスカイダイビングをすることです)

My dream is to be the President.
C (不定詞句)
(私の夢は大統領になることです)

■ 補語が形容詞および形容詞の働きをするものの場合

You look tired this morning, Carol.
C (形容詞)
(キャロル、今朝は疲れた顔をしているね)